鹿の子台の歩み

~ これからのまちづくりを進めるために ~



CONTENTS:

- 1. 鹿の子台の四半世紀
- 2. 地域の成り立ちと地域活動

2020. 7.

鹿の子台自治協議会

鹿の子台の四半世紀

地域のありさま		地域活動の様子		
S60. 4	「北神戸中学校」開校	S60. 4	「北神戸中学校PTA」設立	
Н 3. 3	北町6丁目入居始まる			
Н 3. 4	「鹿の子台小学校」開校	İ		
	「神戸鹿の子幼稚園」開園			
Н 3. 5	「鹿の子台街開き」式典挙行			
		Н 4.12	「長尾地区民生委員児童委員協議会」に鹿の子台	
			地区担当委員1名を選任. その後, 3年毎の改選の	
İ		İ	度に2~6名に増員	
		Н 5. 4	「鹿の子台北ハイツ自治会」設立	
		Н 5.10	「老人クラブ・サークル鹿の子」設立	
Н 6.4	「フルーツ・フラワーパーク」開園	l į	「鹿の子台北町6丁目自治会」設立	
	, , , , , ,		「鹿の子台小学校PTA」設立	
İ		Н 6. 5	「アヴニール鹿の子台自治会」設立	
			「鹿の子台北町5丁目自治会」設立	
Н 7. 1	「阪神淡路大震災」発生,被災			
	震災被災者仮設住宅8か所(後	н 7. 4	北区民生委員児童委員協議会、「鹿の子台ボラン	
11 1	9か所)1800戸建設,入居開始	11 1	ティア連絡会」等による仮設住宅支援活動が始まる	
н 7 6	「北神中央線」全線開通	İ	7 17 在相互] 41-600000日 日人饭旧到18 和60	
11 1. 0		Н 8 4	「鹿の子台北町4丁目自治会」設立	
İ		H 8. 5		
		n o. o	協議会」設立	
İ		Н 8.10		
		11 0.10	福祉センター及び児童館整備等を要望. 以降毎年	
İ			出席、要望を提出	
		Н 8 11	「北区青少年問題協議会鹿の子台支部」設立	
		11 0.11	(後,「青少年育成協議会」と改称)	
H & 19	「赤松台」供用開始(キリンビール		(区,「日夕千日及伽峨五] (区)(内)	
11 0, 12	神戸工場操業開始)			
		на х	青少協, 鹿の子台小学校において野外映画会を開	
		11 3. 0	催. 以降, H16年まで毎年夏休みに開催	
ц о 19	 		催・ 外件, 1110 十よく 44 十友 M → M に 所 惟	
11 9.12	' 四份日勤平但] 王林州地	H10. 1	青少協, 鹿の子台小学校において「とんど」を開催.	
İ		1110. 1	以降、毎年開催	
1110 4	「巨尺六乎」動供 明元(これ)こと	H10. 4		
П10. 4	「長尾交番」整備,開所にれによ	п10. 4		
1110 5	り長尾駐在所は廃止)		治会設立を検討,準備作業に着手	
пιυ. 5	「長尾線」全線開通	1110 7		
1110		ı	「鹿の子台南町2丁目自治会」設立	
н10. 8	「上津台」供用開始	нто. 8	青少協, 鹿の子台小学校において「鹿の子台サマー	
			フェスティバル'98」開催. フリーマーケット,野外映画	
İ		l i	会	

 地域のありさま				
		H10.10	「鹿の子台南町4丁目自治会」設立	
Н10.12	「鹿の子台地域福祉センター」の			
	整備が決定			
Н11. З	震災復興住宅の入居が始まる			
	県営鹿の子台南鉄筋住宅 150戸			
	市営鹿の子台南住宅 230戸	H11. 4	「鹿の子台ふれあいのまちづくり協議会」設立	
		H11. 6	「鹿の子台自治協議会」設立, 既設の7自治会が加入. 同時に「北区連合自治協議会」に加盟. これにより「鹿の子台自治会連絡協議会」は解消	
ļ		H11. 7	「鹿の子台北町1丁目自治会」「鹿の子台南町3丁目	
		11111. 1	自治会」設立.自治協に加入	
		H11. 8	鹿の子台小学校において「鹿の子台サマー・フェス	
			タ'99 開催. フリーマーケット, 野外映画会(自治協,	
H11.12	震災被災者仮設住宅が解消		ふれまち協,青少協の共催)	
		H12. 1	鹿の子台小学校において「鹿の子台ニューイヤー・	
			フェスタ2000」開催(自治協,ふれまち協,青少協)	
			「とんど」を中心に,以降毎年開催	
H12. 2	「鹿の子台児童館」整備が決定			
H12. 3	「神戸リサーチパーク鹿の子台」	H12. 3	鹿の子台,大沢町,道場町,長尾町,八多町の代表が	
	竣工式举行		神戸リサーチパークと周辺各町の「まちづくり」協議	
İ			を始める	
			「鹿の子台防災福祉コミュニティ」設立	
		H12. 4	「鹿の子台自治協議会」法人認可	
İ			「鹿の子台ハーブの里自治会」設立. 自治協に加入	
H12. 5		H12. 5		
	開所式挙行,供用開始		設のため「安心コミュニティプラザ」制度の補助申請	
		H12. 8	南北集会所の建設を開始	
			「鹿の子台サマーフェスタ'00」開催. 千代ヶ谷公園	
			において「夏まつり」(自治協), 鹿の子台小学校において野外映画会(ふれまち協,青少協). 以降, 毎年	
			開催	
		H13. 2		
		H13. 3		
H13. 4	「鹿の子台児童館」開館	H13. 4	南北両集会所の竣工式挙行	
	「星の子保育園」(当時)開園			
		Н13. 12	「鹿の子台地区民生委員児童委員協議会」設立, 民生委員児童委員8名,主任児童委員2名を選出. その後,民生委員児童委員は増員	
		H14 19	鹿の子台,大沢町,道場町,長尾町,八多町が参加し	
		1114.14	で「神戸リサーチパークまちづくりクラブ」を設立	
			「鹿の子台北ハイツ自治会」が自治協に休会申し出、	
			翌年11月に退会	
i		ı i		

	地域のありさま		地域活動の様子		
		H15.	4	「鹿の子台北町7丁目自治会」設立. 自治協に加入	
		H16.	1	鹿の子台小学校において「第1回自治協杯ソフトボ	
			ļ	ール大会」開催. 以降, H23年まで不定期に開催	
		H18. 1	12	「有馬防犯協会鹿の子台支部」「有馬交通安全協会	
i ! !			į	鹿の子台支部」設立. その後,両支部を統合して「鹿	
			į	の子台防犯・交通安全協会」となる	
i I I		H19.	7	「鹿の子台地域団体連絡協議会」設立. H21.4, ふ	
			į	れまち協の理事会となり解消	
i I I		H19.	8	中断していた鹿の子台小学校における野外映画会	
			į	を「鹿の子台サマーフェスタ・星空シアター」として復	
i I I			į	活. 以降毎年開催	
		H21.	3	鹿の子台自治協議会設立十周年の記念事業として	
			ļ	「歴代理事懇談会」開催	
Н23. 6	「北神区民センター」開所式挙行		į		
	供用開始		ļ		
H27. 4	「星の杜こども園」開園.「星の子		į		
	保育園」が「星の子こども園」に改				
	称		ļ		
H29. 4	北区北神出張所が「北神支所」に		ļ		
	昇格				
	「神戸鹿の子幼稚園」が認定こど	H29.	6	鹿の子台自治協議会設立20周年の記念事業として	
	も園に組織変更		İ	地域計画の策定に向けて取り組みを始める	
Н30. 1	「アスコット・インターナショナル・		ļ		
	スクール」開校		į		
Н30. З	「新名神高速道路」全線開通				
		Н30.	4	%g . 4 E 18 4 - 4 11 E 18 E 2 14 1 - 2 4 E 18	
			į	協に加入	
		Н30.	6	鹿の子台自治協議会設立20周年を迎える	
Н30. 9			į		
Н31. 4			į		
	に昇格.		ļ		
K 1. 5	「北図書館北神分館」が移転して				
D C C	「北神図書館」を新設・開館		ļ		
к 2. 3	新型コロナウィルスのパンデミックがおこる		į		
	が起こる	р o	1	青少協が組織変更し、「鹿の子台青少年育成協議	
		κ Δ.	4	同少協が組織変更し、「庭の丁ロ目少平目成協議 会」と改称	
		R 9	7	云」C以外 設立20周年記念事業の第1段階を終えて報告会を	
		Ν Δ.	'	開催,「鹿の子台タウンガイド」を発刊	
	コナロ ルの国体なも吸引していま	<u> </u>	<u>i</u>		

※上記文中,次の団体名を略記しています.

「自治協」・・・鹿の子台自治協議会 「ふれまち協」・・・鹿の子台ふれあいのまちづくり協議会 「青少協」・・・北区青少年育成協議会鹿の子台支部

地域の成り立ちと地域活動

❖鹿の子台の誕生

この鹿の子台は、隣接する上津台、赤松台とともに、昭和54年12月「神戸国際港都建設事業 北神戸第一特定土地区画整理事業」として、日本住宅公団(後、住宅・都市整備公団、現在は都市 再生機構)が事業主となり、神戸市が施工して開発された、計画的住宅・産業都市です。開発の コンセプトは「住む、学ぶ、働く」が近接した街づくり、そして将来の模範となる街づくりとい う意味をこめて「神戸リサーチパーク」とネーミングされました。この事業地域は、(第1地区) 鹿の子台、(第2地区)上津台、(第3地区)赤松台に分かれ、それぞれが特色ある街づくりを目 指していましたが、計画から長い年月が経過して社会情勢や経済情勢が大きく変化する中、当 初の計画も大きく変更を繰り返して現在の姿となっています。

さて、開発造成途中の鹿の子台へ最初に移ってきたのは北神戸中学校でした。当時、長尾・道場両町の中学生は、旧三田町域の生徒と共に「神戸市及び三田市組合立八景中学校」へ通っていました。しかし、鹿の子台ができると生徒数が急増するということで、この組合を解散して神戸市独自の中学校を設置することになったのです。そして、昭和60年4月に開校しました。鹿の子台はまだ人口0人、「鹿の子台」という地名もまだありませんでした。学校の周辺では造成工事が急ピッチで進められ、数えきれないほどの超大型の重機類が走り回っていました。

鹿の子台の宅地開発は北町先行でした。平成2年秋から、北町6丁目に公団土地・民間建物200戸が建てられ、分譲が始まりました。翌年3月には入居が始まり、4月から鹿の子台小学校が開校、神戸鹿の子幼稚園が開園となりました。その後も、公団、県・市住宅供給公社、民間企業などによって宅地・建物分譲が進み、人口の定着が進んでいきます。5月には神鉄道場駅前で「街開き」式典が催され、公団・鹿の子台北ハイツ、アヴニール鹿の子台、北町5丁目、4丁目へと次第に住宅建設、入居が進みました。

❖大震災の教訓

そうした中で、あの阪神淡路大震災が起こったのです。新しく移り住んだばかりの土地で、 隣近所にどんな人が住んでいるのかもよくわからない中での震災体験は、住民に非常な危機感 を与えました。住民が互いに助け合うしくみを作らなければならない、その思いが一体感を生 み、それぞれの地区で自治会の組織化が進んだのです。さらに、鹿の子台地域としての大きな まとまりも必要だとの思いも。当時、この地域には、自治会が集会するにも、行事を催すにも 施設が、場所がなかったのです。

鹿の子台北町に5つの自治会が誕生したのが平成8年4月、その翌月から誰からともなく呼びかけが起こり、5つの自治会の会長・副会長が一堂に会する機会ができました。そこで話されたことは、それぞれの自治会が別々に活動しているだけでは大きな目的は達成できない、5つの自治会が力を合わせて自分たちの力でまちづくりを進めていこう、ということでした。まず、自分たちの集会施設が必要だ、そこを拠点として「住民の住民による住民のためのまちづく

り」を進めよう、これが合言葉となりました。そして、この会合を「鹿の子台自治会連絡協議会」とし、最初の目的である集会施設の建設を目指しました。北区まちづくり推進課、建設局北神開発事務所、住宅・都市整備公団(いずれも当時)などを訪ね、手探りの状態で可能性を模索していく中、9年3月に震災復興基金に「安心コミュニティプラザ助成」という制度ができることを知り、これにより南北両集会所の建設の目処が立ちました。その後も、用地取得やその資金調達など様々な難問があったのですが、当時の自治会連絡協議会、その後の自治協議会の役員等の必死の努力により、幸いにもこれらを克服することができました。そして、13年春、遂に「鹿の子台北町コミュニティプラザ」と「鹿の子台南町自治会館」として2集会所が完成、4月にオープンしました。また、これらを運営する「管理運営委員会」をそれぞれに組織しました。

❖自治協議会の設立

多少前後しますが、集会所建設が現実のこととして浮かび上がってきたころ、南町にも住宅開発が広がり、人口定着が進んだ町から自治会の立ち上げが進んで2自治会が協議会へ加入して計7自治会となりました。そこで、集会所の用地取得、建設費補助申請の必要により、平成11年6月に「鹿の子台自治会連絡協議会」を発展的に解消し、連合自治会「鹿の子台自治協議会」を設立しました。同時に「北区連合自治協議会」に加盟しています。そして、翌年4月に、地方自治法第260条の2第1項に基づく「地縁による団体」として法人認可を受けました。その後も宅地開発が進むにつれて自治会が設立され、現在11自治会、約1,900世帯が自治協議会の活動に参加しています。

❖公共施設と地域団体

これと並行して、地域福祉センターや児童館を作ってほしい、という要望がありました。当時、地域内には9か所1,800戸の震災被災者仮設住宅があり、9か所それぞれに集会所が設けられていました。私たちは、そこを拠点として支援活動をしていました。被災して仮設住宅に住まわざるを得なくなった方々にはお気の毒に思いながらも、集会所は垂涎の的でした。いずれ仮設が解消するなら、その時には1か所でいいから鹿の子台の住民のために残してほしい、という思いがありました。また、鹿の子台周辺の町にはそれぞれ児童館が設置されています。鹿の子台にはそれがないため、周辺各町の児童館へ押し寄せ、本来利用できるはずの子どもたちが追いやられている、という苦情が起こったのです。そして、住民がしっかりしていれば児童館ぐらい作れるはずだ、と非難されました。私たちは、こう非難されたからではなく、鹿の子台の子どもたちにとっても、周辺各町の子どもたちにとっても必要なことだと考えました。

これらのことを、平成8年10月から出席できることになった「住民自治組織指導者と区長との懇談会」(当時)に要望しました。そして、住民の皆さまのご支援を得て、その後に実現することになりました。12年5月に「鹿の子台地域福祉センター」が、13年4月に「鹿の子台児童館」がそれぞれオープンしています。同時に「星の子保育園」(当時)も開園しました。また、地域福祉センターを管理・運営し、地域福祉活動を実施する「鹿の子台ふれあいのまちづくり協議会」を

11年4月に、これに付随して「鹿の子台防災福祉コミュニティ」を12年3月に組織しました。 さらに、それまで長尾町に所属していた地区民生委員児童委員協議会の地域独立を北区に要望し、13年12月の一斉改選を機に委員10名を推薦して、「鹿の子台地区民生委員児童委員協議会」が発足しています。また、18年12月の「有馬防犯協会」と「有馬交通安全協会」の鹿の子台支部(後に「鹿の子台防犯・交通安全協会」に統合)の設立を支援、その運営に参画しています。

こうして、地域の公共施設が充実し、多くの地域団体が組織されて地域活動が活発になってきました。ところが、その数が増えるにつれ、それぞれ独自の活動をしている団体間でお互いが見えにくくなってきます。そして、団体間で連携することにより、活動の効果と効率をより高めたい、という要望が生じてきました。そこで、19年7月に主だった8地域団体の代表に声をかけ、相互に連絡・調整する機会をもうけたい旨を説明して参加の意向を確認したところ、全員の賛同を得て9団体が参加する「鹿の子台地域団体連絡協議会」が発足しました。2か月毎に会合して協議していく中で、ふれあいのまちづくり協議会に一本化して地域運営を行っていくことで一致し、21年度から同協議会の組織を一部変更して再発足することとなりました。

なお、地域団体の中で、北神戸中学校PTAと鹿の子台小学校PTAはそれぞれの開校に伴い、また「老人クラブ・サークル鹿の子」、「青少年育成協議会鹿の子台支部」及び「鹿の子台保護司会」は自治会活動とは別の経緯で設立されていますので、ここでは触れていません。しかし、これらの団体が自治会活動を支援し、貢献していただいているところは決して小さくないことを、ここに申し添えます。

❖広域のまちづくり

ところで、この地域は長尾町・道場町・八多町の3町にまたがる山林と農地を造成して作ら れた土地で、当然のことながらこれら3町と境界を接しています。さらに、「神戸リサーチパー ク」という地域から見れば、大沢町にも隣接していることになります。これらの各町は伝統的な 農村地域であり、神社仏閣、史跡、伝統芸能をはじめ、古代の住居跡や古墳群など歴史的・文 化的遺産が多くあります。また、この地に住居を構えた住民は、他には見当たらないゆったり とした街並みと、緑に囲まれた住環境を好まれて移られたことと思います。しかし、旧来の農 村と新興住宅地が隣り合わせにできると、その生活スタイルや考え方・感じ方の違いからとも すればトラブルが発生するものです。それは、本来悪意によるものではなく、往々にしてお互 いの理解不足が原因であり、コミュニケーションの機会がないことから起こっています。そこ で、無意味なトラブルを繰り返すことは避けたいし、さらに進んでお互いを理解し合い友好的 な関係が結べるような機会を作っていくことが必要だ、まして歴史や文化遺産、自然と触れ合 うことができるなら誰しも厭うことはないだろう、と私たちは考えました。そこで、隣接4町 の連合自治会と話し合い、自分たちが「仲人」となって地域団体や住民同士の「縁組」を進めてい こう、ということで一致しました。その結果、14年 10 月に 5 町の集まり「神戸リサーチパーク まちづくりクラブ」が発足しました。そして、広報紙「まちふれんず」を発行してそれぞれの町の 情報を発信、「五町めぐり探検」(その後「五町ふれあい探検」)を開催して、足と肌で隣町を感じ

てほしい、そこから新たな交流を広げてほしい、という思いで運営しています(「五町ふれあい 探検」は現在休止しています)。

また、このクラブが発足した当時、鹿の子台の子どもたちにこの地域の伝統や文化を伝えていきたいという趣旨で、鹿の子台小学校の「総合学習」の一環として毎年2月頃に各町から講師を1名ずつ派遣し、3年生を対象に「地域文化塾」を開きました(学校教育指針の変更に伴い26年2月をもって終了)。

❖これまでと・これからと

自治協議会は、平成30年に設立20周年を迎えました。そして、設立当初から「安全・安心、 さらに快適なまちづくり」を目指して活動してきました。

設立当初は、前述の通り活動の場所として集会施設や公共施設の充実を目指しました。同時に、住民がお互いに顔の見える街に発展させるため、周辺地域で新年に行われている伝統行事「とんど」、独自の夏の行事「サマー・フェスティバル」を始めました。この二つ行事は、現在その規模を広げて「ニューイヤー・フェスタ」と「サマー・フェスタ」として続いており、これまで共に21回を数えています(各1回の雨天中止がありました)。また、平成16年秋から「自治協杯ソフトボール大会」を開催、地域内の自治会対抗や、神戸リサーチパークまちづくりクラブにおける五町対抗などの形で、23年まで計6回実施しました。

ところが、20年も経過するうちに、これまでできていたことが次第に困難になってきつつあります。その原因の一つは、地域活動に関わってきた人が高齢化すること、もう一つは住民の生活意識の変化です。地域活動の後継者ができず、差し迫った不自由がなくなると地域社会への関心が薄れていきます。しかし、それはコミュニティ崩壊につながりかねません。

設立 20 周年を迎えるにあたって、その前年から記念事業として「これからの鹿の子台のまちづくり」を考え、地域計画を策定することとしました。自治協議会発足当時のように地域への関心をもう一度取り戻し(私はこれを冷めかけた風呂になぞらえて「追い焚き」と呼んでいます)、人知れず押し寄せてきている少子高齢化に対応するコミュニティの態勢を整えていくことが課題です。しかも、この課題は鹿の子台全体に関わるものです。そこで、ふれまち協と連携して取り組むこととしました。それぞれの組織の特徴を生かして、効率よく進めるためです。また、この課題に関心を持つ人の層を厚くし、さらにすそ野を広げるためです。

まちづくりの第1歩は、過去の経過を認識し、現状をあるがままに把握することです。そして、「ない」ものではなく「ある」ものに注目する、「できないこと」ではなく「できること」に注目する(湯浅誠)姿勢で、鹿の子台をさらに住みよい街にしていきましょう。この冊子と今回発行した「鹿の子台タウンガイド」を、その道標の一つとしてください。

令和2年7月 鹿の子台自治協議会 会長 山谷博基 記



◆鹿の子台サマー・フェスタ 2000



◆鹿の子台サマー·フェスタ 'O3



◆鹿の子台ニューイャー・フェスタ'20 とんど



◆鹿の子台サマー・フェスタ '18 夏まつり





◆第6回 自治協杯ソフトボール大会











